

学校でも家庭でもない

第3の教育（社会教育）の場

ボーイスカウトの指導者は、もちろん研修を受けていますが、普段は、普通の社会人や学生です。先生と生徒という関係ではなく、仲間として学び合うのがボーイスカウトのスタイルです。いろいろな立場の人がいれば、1つの問題に対して、いくつもの答えがあり、そのどれもが正解かもしれないことを知る事もあります。黒か白かだけではなく、柔軟な考え方を身に着けることができます。



子どもたちに
素敵な体験を！



子どもたちの体験格差が言われています。子どもの頃の様々な体験は、子どもの成長にとって貴重な要素です。体験が少ない子どもは、やったことがない・見たことがないことに対して、想像することすらできず、新しい場所に行っても、何かを探してみようとか、こうしたら楽しいかもしれないと考えることが苦手になります。興味関心が薄れ、選択肢が狭まってしまうのです。ボーイスカウトでは、野外での活動を中心に、年齢に合わせた様々なプログラムを展開しています。頭が柔軟で、いろいろな考え方を取り入れられる子どもの時期の多彩な体験は、その後の人生により影響を与えます。

教場は野外！

キャンプやハイキングなど、活動の基本は野外です。雨が降ったり、暑かったり、寒かったり…。いつも快適なわけではないからこそ、工夫を凝らし乗り越えていく応用力が身に着きます。

自然の中での活動は、葉っぱの音や肌で感じる森の匂いなど、五感が研ぎ澄まされます。大自然の猛威の前で、自分がちっぽけだと感じ、畏敬の念を抱く子もいます。

そもそも ボーイスカウト って何？ 特集

失敗だって 貴重な体験です

失敗は子どもにとっても、つらい体験です。でも、それは、失敗から立ち直る練習をするチャンスでもあります。信頼できる仲間と囲まれ、自分で悩み、考えることで、あきらめない力や立ち直る力を身につけることができます。

仲間の中でたくましく

ボーイスカウトでは、年代に合わせたグループで活動しています。

小1・2年のビーバー隊では、大人のリーダーも入り、仲間とみんなで遊ぶことの楽しさを学びます。

3~5年のカブ隊は、自分勝手に行動するのではなく、組で行動する基本を学びます。

小6~中3のボーイ隊では、班長を中心に、班で役割分担をして力を合わせ、ミッションを達成していきます。活動の中で、命令しているだけでは、人はついてこないこと、協力することの大切さや、お互い頼っていいんだという信頼感など、たくさんのことを学びます。



リーダーはボランティア

子どもたちの指導をするのは研修を受けたリーダーです。ずっと続けてきた人もいれば、全く初めてという人もいます。社会人も学生もいて、年齢も性別も様々ですが、休日をやりくりして、子どもたちのために集まります。子どもたちは大人への信頼感と多様な価値観を学びます。

ボーイスカウトは 世界と繋がる

現在、177の国と地域でこの活動が展開され、4年に1度、世界中のスカウトが集まる世界大会も開催されます。次は2027年、ポーランドです。国際交流も盛んで、webを使ったイベントでお互いの活動を紹介しあったり、国際派遣に参加したりもできます。同じボーイスカウトの仲間と言うだけで、すぐに打ち解けられるから不思議です。みなさんも、ぜひ、ボーイスカウトに入って、こんな体験をしてみませんか？



日本ボーイスカウト兵庫連盟

〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 兵庫県民会館8階

電話：(078)333-1781 FAX：(078)330-3365

e-mail：info@bs-hyogo.gr.jp

開設時間：火~土（日・月・祝日は休み）9：00~17：00

